

歌僧空体房鑊也の舍利信仰

—室生山仏舍利盜掘事件ならびにその信仰背景の一端—

研究員 室賀 和子

東大寺大仏再建事業の真つ只中、重源の弟子鑊也が起した室生山仏舍利盜掘事件は時の為政者をも巻き込む大事件であった。兼実をして「室生舍利流布上人」と称された鑊也の行為は如何なる要因で引き起こされたのだろうか。舍利を盗むという行為が重源の命を受けた等の外的要因のみで行い得るものなのか、そこには鑊也が抱いていたであろう理念的なものが介在していなかったかなどについて、次の項目に沿って講義した。

- 一 室生山仏舍利盜掘事件の経緯
- 二 事件に対する諸氏の見解
- 三 東寺宝菩提院蔵『舍利要文』
- 四 「陀羅尼經要文」と『宝悉地陀羅尼經』
- 五 『宝悉地陀羅尼經』の素性をめぐって
- 六 密教的舍利觀念 舍利の功德・靈力
- 七 室生山仏舍利
- 八 鑊也の舍利信仰

現在この事件については『玉葉』の他に有力な資料がない。しかもこの『玉葉』も興福寺側と重源側とが展開したであろう主張内容の詳細についてはほとんど言及するとこ

ろがないため、その要因については諸見解ともに事件をめぐる社会的状況に鑑みて推測せざるを得ない。それを大別すると、まず当時進行中であつた東大寺再建の資金難に求める見解、また一つに舍利信仰の隆盛がもたらした深刻な舍利不足、あるいは生身信仰を背景にした重源の舍利への拘り等に認める説である。しかしこの勸進活動と舍利信仰の高揚は不可分であり、互いに密接な関係にあつたと思われる。その舍利を盗むという鑊也の行為を探る資料を『舍利要文』から探ってみると、まず室生山の舍利自体については空海由来の伝承を持ち、かつ恵果より伝承された宝珠と一体視できる舍利であり、鑊也はその舍利の力の根源に大日如来さらには天照大神を觀じていたことが確認された。また、その強力な力を有する舍利を盜掘し流布する行為を支える思想として、舍利（仏舍利乃至一粒分散一分）を得ることの莫大な功德を説く『宝悉地陀羅尼經』があげられ、しかもその經説の存在と真实性は密教的舍利觀念によつて支えられていたのである。抑も舍利はいくらに秘匿するものではなく公開すべきだとの考えは勝賢ら三寶院流の主張するところであつたが、鑊也の行為はその勝賢の思想を過激に具現化した態のものであつたと見なすことができるであろう。東大寺の再建が伊勢信仰や宝珠信仰と深く関わっていたことに鑑みれば、思想的な側面から見ても重源を長として執行された東大寺の再建事業が鑊也の舍利を盗む行為に何ら影響を及ぼさなかつたとは考え難く、

「室生舍利流布上人」(『玉葉』建久二年六月十九日の条)
「鏝也上人號其舍利流布」(『阿婆縛抄』第六十八舎利の項)
とあるように、その「流布」の内実が多分に勸進的側面を
有していたに違いない。ただ事件の首謀者を重源と見なし、
事件の実行者鏝也についてはほとんど顧みることがなかつ
たが、鏝也の舍利信仰の在り方がなければ、たとえ重源の
命があつたとしても果たして実行に移したかどうか甚だ覺
束ないことであつたのではないだろうか。『宝珠口伝』中
書「寫本安貞二年十月一日伊勢國於山幡寺鏝也上人室親口
傳之」とあるごとく、最晩年においてもなお鏝也は舍利・
宝珠を深く信仰していたのであつた。